

【1 分解説】ティッピングポイントとは？

総合調査部 副主任研究員 牧之内 芽衣

ティッピングポイントは「転換点」や「臨界点」と訳され、不可逆的に変化するしきい値を指します。もともとは社会現象の急拡大などを説明する用語でしたが、近年は気候変動の文脈で使われることが多く、地球環境が元に戻らなくなるポイントを指す言葉として定着しました。

具体的な例として、グリーンランド氷床の崩壊やサンゴ礁の大量死滅などが挙げられることが多いです。地球全体が一気に臨界点を越えて暴走するわけではないため、ティッピングポイントは複数存在する可能性が高いほか、ティッピングポイントがいつ到来するか、あるいは、何がティッピングポイントに当たるかについては諸説あり、必ずしも科学的に一致した見解はありません。さらに、氷床融解のような変化は、起こり始めてからも数世紀単位で進行する場合があります。

したがって「〇年以降は手遅れ」といった極端な表現には注意が必要です。危機感を持ちながら人類の主体性を信じ、気候変動を食い止める行動を続けることが重要です。